

株式会社 鈴木コーヒー 代表取締役社長 <sup>さとう しゅんすけ</sup> 佐藤 俊輔 氏

## コーヒーを通じて地域と社会に貢献。 人々の幸せなシーンを創造したい



### PROFILE

新潟市出身。大学を卒業後、大手コーヒー関連企業の営業を経て、鈴木コーヒーに入社。新潟市のピアBandai、雪室ブランド（越後雪室屋）の立ち上げから関わり、2016年に代表取締役社長に就任。コーヒーをライフスタイルの一部と定義し、直営店をはじめ多角的に展開する。2020年、ICT技術を用いたサービスの開発・販売を行う株式会社SUPER FUTURE 代表に就任。2021年6月に「HYAKUMANTON NIIGATA」をリリース。

1963年創業の鈴木コーヒーは、飲食店へのコーヒー・食品材料の卸売業として成長。近年は消費者の多様化するニーズに応え、多角的な事業を行っています。3代目として革新的なブランディング、クリエイティブ力で新たな展開に挑戦する佐藤俊輔社長にお話を伺いました。



株式会社 鈴木コーヒー

〒950-0072  
新潟市中央区竜が島1-4-4  
TEL : 025-249-7400  
<https://suzukicoffee.co.jp/>



ECサイト「HYAKUMANTON NIIGATA」：  
<https://hyakumanton-niigata.com/>

# SDGsの取組は経営戦略として最高峰の一つ。経済を回した上で世の中が良くなっていくという考え方が大事だと思います

## 新潟の魅力を発信する 新たな名産品「雪室珈琲」

コーヒーや紅茶の加工品、食品材料・機器類の販売を主力に、県内に6つの直営店を展開する鈴木コーヒー。新潟にコーヒー文化を広めてきた同社を代表するオリジナル商品の一つが「雪室珈琲」だ。「12年程前、営業で訪れた上越のカフェの方から“雪室でコーヒー豆を寝かせると味が変わる”と聞いたのがきっかけです。コーヒーを通じて地元へ貢献できることは何かと考えていた中でこの話を聞き、ぜひ当社で取り組みたいと思いました」と佐藤社長。雪室で低温熟成させたまろやかな味わいのコーヒーは人気となり、新しい新潟の名産品として認知されるようになった。

## SDGsの取組を通して 新潟の文化と地元企業を支援

地域貢献とともに力を入れているのがSDGsの取組である。その一つが新潟古町芸妓や長岡花火とコラボしたコーヒー。新型コロナの影響で両者とも厳しい状況が続くことから、新潟が誇る文化を守るため、製品の売上の一部を寄付している。

「ただ寄付をするのではなく、お互いに利益が出る仕組みを作ることがSDGsの概念に沿った方法だと思います」。

さらに佐藤社長は、今年6月、新潟で100万トンのフードロス削減を目指すECサイト「HYAKUMANTON NIIGATA」を開設した。県内の食品関連企業などが参加し、行き場を失った食材や賞味期限が迫る商品をサイトで販売。買い手は少しでも安く購入できるシステムで、環境問題の解決と地元企業の支援を目指す。「数社が100歩進むよりも100社が一步踏み出



最高級品種“ゲイシャ”豆を使用し、古町芸妓とともに作り上げたドリップバッグコーヒー「とめそでさん」「ふりそでさん」。「新潟の大事な文化を守りたい」と、売上の一部を芸妓が所属する柳都振興(株)へ寄付している。

した方が一気に世の中が良くなる。1社でも賛同する企業が増えてほしい」と期待を寄せる。

## CRAZYでワクワクすることを 主軸にブランディング

「商工会議所さんはすごくいいコンテンツを持っているので、何かにチャレンジしたい若者は上手に活用してほしいですね」\*と、自身も20代から雪室ブランドの構築に関わり、チャレンジを続けてきた佐藤社長。2017年に新たな事業方針として掲げたのが「CRAZY BRANDING」だ。「CRAZYという言葉には“熱狂する”といったポジティブな意味合いも含まれています。当社は全ての取組に対してCRAZYで、ワクワクすることを優先させる。1,000人よりも100人の熱狂的ファンを作ることをブランディングの軸にしています」。

今後は新たなマーケットの開拓を進めていく。「何年後かには、どのカテゴリーでもいいのでコーヒー業界で日本一を取りたいですね。そして、コーヒーはリラックスできる空間や幸せなひとときに登場するもの。これからも世の中が幸せになる“コーヒーハッピーシーン”を創り出すことを大切にしていきます」と力強く抱負を語ってくれた。

※  
にいがた  
創業塾  
についてはこちら



社員の個性を活かしながら、和気あいあいと話し合える職場環境があり、時代の変化に合った新しい価値をこれからも創り出していくことが期待される。